

令和5年度 学校評価

【自己評価】

評価は8領域、42項目、201の視点で評価した。

1項目、3点を満点とし、

評価基準は以下

点数	3点	2点	1点
評価基準	8割以上達成	6割以上達成	6割未満の達成

外部評価のお願い

当校では学校評価を行い、教育内容の改善に努めているところです。以下についてご意見を伺いたくよろしくお願い申し上げます。いただいたご意見は、学校評価に反映させていただきます。

自己評価・自己点検の結果から

以下の視点でご意見をお願いいたします。

1, 卒業生の特性から

2, 国家試験結果からその取り組みについて

3, 休学・退学の状況とその取り組み

4, 入学生確保の取り組みから

5, その他

例) 昨年度の COVID-19 感染予防対策や学習の保証についてなど

令和5年度 学校評価

領域	番号	評価項目	評価	評価結果
I 学校経営	1	学校のビジョン及びそれを実現するための組織目標を策定しており、かつ、その目標が教職員に理解されている。	2.4	<p>学校評価を実施し、評価結果を教職員に周知すると共に外部評価も公表している。新しい職員が増え、メンバー間の協議を通じて、さまざまな視点やアイデアにより、組織全体の活性化につながることを期待している。</p> <p>本校の教育理念、目的、目標、卒業生の特性、各学年の到達目標に加えて、育てたい学生像等（ビジョン）を、カリキュラム改正の視点で確認しながら、次年度の目標に繋げていく。</p> <p>教務会議等では十分な意見交換ができる環境を作り、コミュニケーションや協力の強化を図る。運営会議に参加していない教職員へも、内容の周知を具体的にしていく。</p>
	2	組織目標に対する評価を実施し、その結果を教職員に周知するとともに、次年度の目標につなげている。		
	3	学校評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知するとともに、外部にも公表しているか。また、評価結果をもとに改善計画を策定している。		
	4	学校運営組織や意思決定組織は規定等において明確にされ、機能している。		
II 教育課程・教育活動	5	卒業時において持つべき看護師の資質を、教育目標に明示しているとともに、卒業時の到達状況を分析している。	2.6	<p>教育目標、学年別到達目標は、適宜学生に伝え中間・年度末に評価している。本年度は、新カリキュラム改正2年目であり、2学年の臨地実習を中心に評価を行った。</p> <p>履修科目は、年間100名を超える非常勤講師に依頼をしている。依頼の際には、進捗も含め各非常勤講師と打ち合わせも行っているが、個々の予定もあり、授業進捗との順序性が難しい。学習進捗についてシラバスの見直しの際に確認はしているが、教務会議等でも学習効果を考え、全体の進捗を見直し修正していく。</p> <p>殆どの実習場所でCFルームや学習場所は確保されている。指導者の固定は施設により難しい場合もあるが、指導者間で学生の状況が伝達され共通理解しながら指導が行われている。</p> <p>学生が関係したインシデント等は、年度毎に集約し、次年度の実習前に全学年へ周知して教材とし活用している。また、それ以外にも起こしやすいインシデントアクシデントを視覚教材で共有し、事故防止対策を実施している。実習では、教員が援助前・中など、必要な事柄は学生へ確認し、アクシデントに繋がらないように注意喚起すると共に、失敗や挫折で学生が自己評価を低下させ、自尊心に悪影響を及ぼさないようにしている。</p> <p>演習や技術チェックでは評価を複数の教員が行っている。教員は、学生アンケートを活かして授業を見直す。また、能力別到達度目標チェック表も活用（提出）し自己成長に努める。</p> <p>教科外活動は、コロナ渦前のように十分できないが、少しずつ出来るところから再開し、他世代との交流の機会が多様な人間関係の経験となるようにしたい。学生のレクリエーションも、学生が心身ともに健康的に過ごせ、良い関係性の構築や団結力、学習の効率化などに繋がるようにしたい。</p>
	6	学習内容は、教育理念・教育目標と一貫性があり、時代の要請に応える内容になっている。		
	7	授業計画が作成され、教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしている。		
	8	効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整している。		
	9	授業内容や指導方法が学生レベルに合うよう工夫・改善している。		
	10	学生の単位取得にむけた支援を実施している。		
	11	実習目標が達成されるよう実習環境が整備されている。		
	12	実習指導者と教員の役割を明確にし、お互いに協力し実習指導者にあたる体制がある。		
	13	学生に単位認定のための評価基準と方法を公表しており、かつ、評価について公正性・妥当性が保たれている。		
	14	実習時の患者への倫理的配慮を励行している。		
III 入学・卒業対策	18	より多くの応募者を確保することに努めている。	2.5	<p>令和5年度入学者は20名、令和6年度入学生は12名（充足率30%）と著しく減少している。入学者の減少は、釧路市内～管内の人口減、18歳人口減、札幌などの看護大学定員増や帯広など近隣地域の看護専門学校2校増の影響、コロナ渦での看護師志望の減等と考える。看護師へ興味を持ち入学に繋がるようにと様々に工夫を重ねているが入学者確保が難しい。本校の役割である「地域で暮らす人々の生活と健康を守り支える使命」を果たす人材の確保が急務である。入学に際し、募集種別追加等の検討を重ね、地域の医療を守り看護師の育成は急務であると医師会として地域自治体へ提案しているが、今後も最優先課題として取り組んでいく。</p> <p>進路説明会への参加や、学校訪問で受験者の情報収集や進路指導教官への説明を行っている。入学者の出身校へ学生生活の様子を写真・メッセージを添えて報告し掲示してもらっている。各高校の行事を確認しながら、オープンキャンパスの日程を設定している。毎年アンケート集計を行い計画的に実施している。他に見学希望があれば随時受け入れている。</p> <p>入学生の確保のため、オープンキャンパスの必要性はあるが、開催や準備等は入学生数減少に伴う学生負担が多くなるように工夫が必要である。</p> <p>国家試験対策は、低学年から計画的に実施している。各領域の実習と連動して国家試験問題を実施している。3年生後半の国家試験対策は、グループでの学習や、教員主導で苦手科目（社会福祉論、関係法規、公衆衛生等）を国試前の1月に集中的に実施している。担任の負担が大きくなるように、教職員会議等で学生状況を共有し、協力した学習支援をしていく。</p>
	19	国試の合格率が100%となるよう、教職員一丸となって取り組んでいる。		
	20	1人でも多く、また質の高い卒業生を多く輩出するための努力を行っている。		
	21	卒業生への支援を行っている。		
	22	卒業生の就職率を高めるよう努めている。		

令和5年度 学校評価

領域	番号	評価項目	評価	評価結果
IV 学生生活への支援	23	進学、就職などの進路に関して学生の相談に十分応じている。	2.7	<p>進学・就職相談に応じ、必要な情報共有を行っている。シンポジウム等で卒業した先輩との交流から直接職場の様子を聞く機会がある。</p> <p>奨学金については、入学時より奨学金制度や高等教育の修学支援新制度、自治体の奨学金制度、交通遺児育英金などの説明・掲示を行っている。</p> <p>2週間に一度、スクールカウンセリングを行っており必要と思われる学生には教員から参加を進めている。また、教員も学生からの相談を個別に受け、問題解決に繋がるように支援している。</p> <p>新型コロナウイルス感染症予防策では、学生の健康チェックを毎日継続的に行った。また、日本医師会から抗原キッドの助成を活用し、実習前・中の検査を実施、学業に支障のないように取り組んだ。必要な予防接種について周知啓発をしている。</p>
	24	経済的、精神的側面からの学業継続支援体制が整い、効果的に活用している。		
	25	学生の身体的側面の健康確保に努めている。		
	26	サークル活動などの学生の自主的な活動を支援している。		
V 管理運営・財政	27	予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っている。	2.3	<p>予算計画と執行管理及び監査が適正に行われている。</p> <p>学生の写真などは、ホームページに掲載する場合や閲覧する場合には、必ず本人の承諾を得てから公開している。</p> <p>学生と教職員、また教職員間の関係性が良く、お互いが平等で尊重される学習環境としたい。パワーハラスメント対策の書籍を購入し職員が学習する環境を作った。セルフチェックも検討を重ね、本年度より年2回の実施を予定とする。ハラスメントの防止と対策、相談窓口や方法についても学校便覧（学生生活に関すること）に示している。</p> <p>年2回の火災訓練、避難（通報）訓練もしくはシェイクアウト訓練を実施している。例年シェイクアウト訓練に関しては、9/1学生の夏季休暇と臨地実習で学内に居られないため、本年度は11/14に実施、次年度は全学年が揃う12/2に計画である。</p>
	28	学生や教職員等の人権・個人情報の保護について十分な対策がなされているか。また、学生、教職員に対しそれらの徹底を図っている。		
	29	災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。また、防犯・交通安全意識の向上に努めている。		
	30	学校運営に学生の意見が反映されるように努めている。		
VI 施設設備	31	施設・設備の安心・安全が確保されているとともに障害者の利用に配慮された構造になっている。	2.9	<p>定期的な安全点検を実施し、耐震基準をクリアしている。</p> <p>構造上、正面玄関横に事務室はなく、目視で不審者の侵入を確認できない。電子錠の実施は予算的にも厳しい。しかし、来客者が、外扉から入りインターフォンを押すと分かるので、手動で施錠できる内扉を開閉することは可能である。準備が整い次第実施する方向としたい。監視カメラは設置している。</p>
	32	教育目標達成に必要な施設設備及び教材が整っているか。また学生の自主的な学習の場が確保されている。		
	33	学生のための福利厚生施設・設備は整っている。		
	34	図書は利用しやすく学生に十分活用されている。		
	35	実習生は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い、十分にその機能を果たしている。		
VII 教職員の育成	36	学生の抱えている課題を踏まえた研修を行っている。	2.2	<p>コロナ禍により、研修の殆どがWebとなっている。担当領域の学会等も開催しているが積極的に参加はできていない。北海道看護教育施設協議会の地区主催研修会はハイブリッド開催のため、地区の看護学校とそれぞれの実習病院の指導者が参加方法を選択し学習する機会を設けている。研修後の伝達講習は限られた研修のみとなり、殆どが回覧で情報共有となっているため、伝達講習開催の機会を増やす。</p>
	37	教員のキャリアに応じた目標設定があり、各教員がそれに向かい、個別に目標設定し達成度の評価をしている。		
	38	学会、研修会に参加する体制を整えている。また研究活動に取り組んでいる。		
	39	学会または研修等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがある。		
	40	教員の指導力・授業力育成、質向上の取り組みをしている。		
VIII 広報・地域活動	41	学校の存在を周知するため、ホームページ、携帯サイトをはじめとした積極的な広報活動をしている。	2.5	<p>オープンキャンパスの実施や、学校案内希望者の随時開催、中学校・高校のインターシップや職業体験の受け入れ実施。釧路市医師会会員および薬剤師会、根室市外三郡医師会の協力を得て、看護職PR及び資料請求ができるように、ラミネートポスターを掲示している。グループホーム訪問、ボランティア活動などの様子を、都度ホームページへアップロードしている。同じ内容を市内弥生地区へ回覧し、活動の様子を伝えている。</p> <p>二次募集前の社会人に向けた、社会人学生のインタビュー記事掲載（釧路新聞社）や入学式・戴帽式・卒業式の取材、新聞掲載（北海道新聞、釧路新聞）等、様々に工夫を行う。</p> <p>市内看護学校4校合同での学生確保策として「キラリ☆未来ナースデリバリーオープンキャンパス」出席、看護協会釧路支部事業「ふれあい看護体験」へ参加し、高校生に限定せず、低学年（中学生と保護者）への広報活動も行っている。</p>
	42	地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っている。		

1. 卒業生の特性から

本校は実習病院が無いというハンディキャップがありますが、それをハンディと捉えずに病院毎の色の違いを個々で感じとることが出来ると思います。それによりほかの学校では得ることの出来ない経験ができ、広い視野で看護に対する意識を持つ事ができるという利点があると思います。それは卒業後の職場での人間関係等においてもプラスにする事が出来るのではないかと思います。

2. 国家試験結果からその取り組みについて

今年の国家試験の合格率は例年と比べても良い結果であり評価出来る内容であったと思います。卒業後に立派な看護師になるのが最終目標ではありますが国家試験に合格しなければそのスタートラインにも立てない訳ですから合格率100%を目指して学生への指導を充実させる事が理想ではないかと思います。

3. 休学・退学の状況とその取り組み

看護師になることへの希望、目的、憧れ等は個人個人で様々ではあると思いますがいざ入学してみると思い描いていたこととの違いに悩む生徒もでてくると思いますが、学校としては定期的な面談に加えこまめな個人面談も適宜行っているようで教員全体で休学者への情報を共有し努力している取り組みは十分に評価出来ると思います。今後も引き続き学習面、心のケア等含め生徒一人一人を支えていってほしいと思います。

4. 入学生確保の取り組みから

入学者数の極端な減少という危機的状況になってしまいましたが、今までも病院、薬局等へのポスター掲示によるPR活動、オープンキャンパスへの取り組み等積極的な入学者獲得への努力をみてきましたので十分に評価できます。今後も少ない数の子供たちの他に社会人、特に一般・社会人チャレンジ入学試験のような新しい発想も考えられて素晴らしいと思います。もう我々医師会、学校関係者だけで解決できないような状況にもなっていますが地道にやっていくしかないと感じます。釧路市全体で考えると他の3校とも共同して対策を講じる事も必要になってきているのかもしれない。

5. その他

釧路市以外からの入学生が3年間通う通学環境をより利便性をよくするような住居の斡旋等が出来れば良いと思います。

1. 卒業生の特性から

釧路市医師会看護専門学校の特性になかった卒業生の輩出することは、直接釧路管内の地域医療への貢献となるため、今後も看護師育成に頑張る必要があります。

令和 4 年度新カリキュラムに基づく教育計画から学生の学力および適性の再評価し、一定のレベルをクリアできる看護師を育成すべきです。

2. 国家試験結果からその取り組みについて

看護師養成施設として国家試験合格は最重要の課題

国家試験合格率 100%が目指すべき目標

看護師国家試験の新出題基準に則った対策、低学年からの生徒の学力に応じた個別指導

国家試験不合格既卒者のフォロー継続

3. 休学・退学の状況とその取り組み

休学時に授業料を聴取しない方針は継続する

看護職に対する志向性や学修に起因する休学・退学の回避策の検討（いずれも 1 割程度に抑えたい）

教職と学生及び家族の連携と対話の機会、カウンセリングの介入など

4. 入学生確保の取り組みから

令和 6 年度入学者の充足率 30%は危機的状況

今後の少子化社会において入学者の確保は喫緊の課題

少なくとも 30 名（充足率 75%）程度の入学者確保が学校の自立した経済的運営に必要な入学者数増加と入学者の学力不足の負の連係の問題

社会人入学枠の拡大、釧路管内自治体と連携した推薦入学枠の設定など

看護学校を持たない病院からの援助（奨学金の人数の増員など）

広報活動のあり方、奨学金制度の活用や周知について

本来、自治体が医療従事者確保、養成の必要性をもっと声高に言う必要がある

5. その他

現在現場で活躍している本校の卒業生の講演やメッセージを、在校生へ届ける機会を増やしていくのはどうでしょうか。例えば、開学 20 周年の記念イベントを体育館で行い、立食でパーティーをする等。